

10月1日

町立病院が町立診療所に 生まれ変わります！

町立病院の歴史を 振り返ってみました

平成23年10月1日、これまで長く町民の皆さんの健康を守ってきた「幌延町立病院」がその歴史に幕を下ろし、新たに「幌延町立診療所」としてスタートすることになりました。

「幌延町立診療所」は、特別養護老人ホーム「こぞくら荘」と廊下でつなぐ形で、1条北2丁目に新築されています。病床数19床で、今までより

少しコンパクトな施設になりますが、新たにCTスキャナーなどを設置し、町民の皆さんの健康を守る拠点として、活用していただきます。

新しい診療所については、来月号で詳しくお知らせしますので、今月号では、今まで皆さんに親しまれてきた町立病院の歴史などを振り返ってみたいと思います。



▲外来診療室



幌延町立病院

幌延町の医療の歴史

わが町の医療は、明治時代に上幌延の法華宗農場に招かれた平邑佐太郎氏が最初の医師でした。その後、平邑医師が天塩町雄信内に転出し、無医村状態が続いていたようです。

この状態を解消すべく、篤志寄付による医師住宅を建築するなどいろいろな対策を講じた結果、大正2年から昭和11年まで、小只開一医師が幌延で開業し、これ以降、医師不在となることはなくなりました。

問寒別地区では、大正時代に柳義蔵医師が開業し、以降、昭和28年まで3名の医師が地域の健康管理を担ってきました。

幌延町に公立病院が設置されたのは、昭和28年の「幌延村立国民健康保険病院」の開院からで、それまでは開業医の方が村から村医または嘱託医として委嘱されていました。